



Wakayama University Symposium Series Vol.2

和歌山大学国際シンポジウム 第2回

アジアにおける日本語教育—日本文化と日本語教育—



報告論集



2022年3月4日(金)14:00-17:00

オンライン開催

主催：和歌山大学 研究グローバル化推進機構

グローバル化推進部 国際連携部門



Wakayama University Symposium Series Vol.2

和歌山大学国際シンポジウム 第2回

「アジアにおける日本語教育—日本文化と日本語教育—」

報告論集 目次

「アジアにおける日本語教育—日本文化と日本語教育—」の開催に寄せて.....	2
第2回 国際シンポジウム 開催主旨.....	3
プログラム.....	5
[基調講演] 日本語・日本文化の多様性と日本語教育.....	6
事例発表.....	16
[事例発表1] ケラニヤ大学 (スリランカ)	17
[事例発表2] ウズベキスタン国立世界言語大学 (ウズベキスタン)	21
[事例発表3] ビヌス大学 (インドネシア)	28
[事例発表4] ブルネイ・ダルサラーム大学 (ブルネイ)	33
パネルディスカッション.....	39
イベント実施報告.....	41
和歌山大学国際シンポジウム 第2回準備委員会.....	42

「アジアにおける日本語教育—日本文化と日本語教育—」の開催に寄せて

従来の海外における日本語教育への関心は、日本が戦後成し遂げた経済成長への注目にに基づき、成功を導いた施策を学ぶことが主であったと考えられます。幾つかの国では国家政策として日本での学びが推し進められました。マレーシアのルックイースト政策はその代表例と言えるでしょう。このような政策面における日本語への関心は現在でも一定規模を保っています。ところが、2000年以降、海外における日本語教育への関心は急速に高まっています。この現象は、従来までの日本語教育に関心が寄せられたものとは趣を異にしており、日本文化が大きなキーワードとなっています。従来から、欧米の知識人を中心に、特徴的な日本文化に対する興味はありましたが、2000年以降進んだグローバル化の進展により、その興味が、世界的かつ一般的に広がりました。特に、クールジャパンに代表される日本の漫画やアニメーションは、世界各国の若い世代に浸透し、作品の背景にある日本文化への関心を喚起しています。このような日本への関心の高まりの再訪は、一般市民が興味を持ったことによるところが、従来と大きく違います。このことから、日本語に対する興味の高まりは、新しい段階に入ったと考えていいでしょう。この新しい段階における日本語教育の核心は、日本語を通して、古代から現代にわたる日本文化についての理解を深めることにあると考えます。

日本の持つ独特な文化と合わせて日本語を学ぶことにより、日本語の奥深さを理解することができると思います。この新しい段階を迎えた日本語教育について議論をしていただくことを期待し、今回のシンポジウムでは「日本文化と日本語教育」という副題を付けています。クールジャパンの代表とされる漫画は、鳥獣戯画や信貴山絵巻、あるいは源氏物語絵巻に端を発したものであり、現在も続く展開の中で幾つもの発展系が形成されています。現在の漫画やアニメーションの作品の中には、外国語に訳しきれない日本語も多く登場しており、その言葉を理解するために日本文化の理解が必要となることもあります。また、現在の日本で見られる風習の中にも、故事に由来するものもあります。一つ例を挙げれば、日本の小学校では体育の時に裏表が赤と白になった帽子を被ります。これは、運動会や体育の授業でチームを二つに分ける時に印とする目的で使用されますが、その起源は、約900年前に天下を二分した源氏と平家の戦いで、源氏が白、平家が赤の旗印を用いたことに由来します。年末恒例の紅白歌合戦も実は、男女の区別ではなく、この源平合戦に由来するものと考えれば、非常に面白い日本の姿が見えてきます。このような文化的な背景を日本語教育の中に取り入れていくことで、日本の姿を明らかにできる。そんな奥深さを日本語教育は持っていると思います。

現在、新型コロナウイルスの被害、そしてウクライナにおける悲劇的な紛争により、世界が引き裂かれつつあります。このような時こそ、世界的な対話が必要になります。対話は、互いの理解と尊重により成り立つものです。このためには互いの文化を理解し合える環境や教育の提供が必要です。今回のシンポジウムは日本語とそして日本語と一体となっている日本文化の理解に関する話題を取り上げたものではありませんが、世界的な異文化理解そして相互の尊重につながるものであると確信しています。

日本文化を背景とする日本語教育についての世界的な対話が、新しい世界社会の礎を作ることに寄与することを願っています。

和歌山大学 学長
伊東 千尋



第2回 国際シンポジウム 開催主旨

コロナ禍の下での授業が始まり2年になります。昨年のシンポジウムは、「アジアにおける日本語教育の現状と課題」というテーマで開催しました。今回は、「アジアにおける日本語教育」の第二弾として、「日本文化と日本語教育」をテーマとしました。

21世紀に入り、アニメをはじめとする日本のサブカルチャーが、若者の関心を集めるようになりました。もともと日本に来る留学生は、特定の専門知識や技術を身につけることはもちろんですが、経済先進国である日本に学んで、将来、自国の経済発展と日本との経済交流の発展に尽くしたいという意図が強かったと思います。

しかし近年、日本に来る留学生の間に、変化が起こっています。それは、日本の大学を卒業してキャリアとする正規留学生に比べて、本国の大学に籍を置いたまま、短期で日本に来る留学生が増えてきたことです。それら短期の留学生たちに、なぜ留学を希望したのかと聞くと、「日本文化に興味があるから」という声を多く聞くようになりました。日本語・日本文化研修生はもちろんですが、本国で日本語教育を専攻して日本語教員を目指す留学生やそれ以外の交換留学生も、日本の文化に大変興味をもっています。

そういった関心の高まりを受けて、日本の大学では、留学生に対して、日本の現代文化や伝統文化の学習や体験を提供することに力を入れています。また、海外大学の大学でも、日本語を学ぶ学生の日本文化への関心に対応するようになってきています。

今回は、このような日本語教育をとりまく国内外の現状を踏まえて、「日本文化と日本語教育」をテーマにしたシンポジウムを企画させていただきました。

「日本文化と日本語教育」といっても、大変多くの問題があります。そこで、まず、基調講演で、野田尚史先生に、「日本語・日本文化の多様性と日本語教育」という題でお話いただきます。次いで、アジア各国の協定大学の先生方から、日本語を学ぶ学生たちの日本文化への関心や、大学での日本語文化関連の授業などについて事例発表をしていただき、それを受け、さらに将来の展望も加えて、パネルディスカッションを行います。

基調講演と事例発表、パネルディスカッションを通して、ご参加の皆様の相互理解と共通認識が深まることができればと願っています。

和歌山大学 国際連携部門 部門長
日本語教育・国際理解教育担当教授
長友 文子





Wakayama University Symposium Series Vol.2

アジアにおける 日本文化と日本語教育 日本語教育

世界的な日本文化への関心の高まりを受け、日本・海外の各大学では、語学教育としての日本語教育だけでなく、日本の現代文化や伝統文化の学習・体験にも注力している。このような国内外の現状を踏まえ、日本語教育の状況と課題を共有し相互理解を深め、日本語・日本文化の教育および研究を共に発展させることを目的とし、「日本文化と日本語教育」をテーマとしたシンポジウムを開催する。

オンライン方式
(Zoom Webinar)

参加無料

定員
500名

2022年
3月5日(土)

13時30分～16時50分 (予定)

司会

国際連携部門 副部門長 藤山 一郎

基調講演

「日本語・日本文化の多様性と日本語教育」

日本大学文学部 教授 野田 尚史



総括

和歌山大学国際連携部門 部門長 長友 文子



大阪外国語大学で国費留学生に日本語を教えた後、筑波大学で日本語教師を目指す学生に日本語文法を教える。その後、大阪府立大学で日本語学関係の科目を担当した後、国立国際語研究所で日本語教育学と現代日本語文法を中心とする研究を行う。2021年4月から現職。現在、文化庁の「日本語教育人材の研修プログラム普及促進事業」の企画・評価会議委員やNHKの放送用語委員を務めている。

和歌山大学教育学部に赴任後、2006年に国際教育研究センター長、2021年から国際連携部門長を務める。留学生の日本語、日本文化、国際理解教育や、日本人学生の日本語教育を担当。また、和歌山県国際交流協会理事を務め地域の在住外国人・外国人児童生徒の支援に関わっている。

事例発表

パネル・ディスカッション



ディールクシ・フラトナーヤカ
(クアニア大学 現代言語学専攻)



イブラギモヴァ・マリカ
(ウズベキスタン国立世界言語大学
日本語学科 上級教師)



リンダ・ウンスリアナ
(ビスマ大学 人文学部 日本語学科)
※事例発表のみ



ロベルト・マサミ・ブラゴウ
(ビスマ大学 人文学部 日本語学科)
※パネル・ディスカッションのみ



秋田 有紀
(ブルネイ・ダルサラーム大学
言語センター 講師) ※事例発表のみ

事例発表 司会 国際連携部門 特任助教 松下 恵子

右記QRコードまたは和歌山大学国際連携部門 (IRD)
HPから登録フォームにて事前にお申し込みください。



【主催・お問い合わせ】 国立大学法人和歌山大学 研究グローバル化推進機構 グローバル化推進部 TEL.073-457-7524 / Mail kokusai@ir.wakayama-u.ac.jp



プログラム

13:30-13:40

■ 開会宣言

[総合司会] 藤山 一郎 (和歌山大学国際連携部門 准教授)

■ 開会挨拶

伊東 千尋 和歌山大学長

13:40-14:40

■ 基調講演「日本語・日本文化の多様性と日本語教育」

野田 尚史 日本大学 教授

14:50-15:50

■ 4 大学事例発表

[司会] 松下 恵子 (和歌山大学国際連携部門 特任助教)

事例1: デイルルクシ ラトナーヤカ (ケラニヤ大学/スリランカ)

事例2: イブラギモヴァ マリカ (ウズベキスタン国立世界言語大学/ウズベキスタン)

事例3: リンダ ウンスリアナ (ビヌス大学/インドネシア)

事例4: 秋田 有紀 (ブルネイ・ダルサラーム大学/ブルネイ)

15:50-16:30

■ パネルディスカッション

「アジアにおける日本語教育—日本文化と日本語教育—」

[パネリスト]

デイルルクシ ラトナーヤカ (ケラニヤ大学/スリランカ)

イブラギモヴァ マリカ (ウズベキスタン国立世界言語大学/ウズベキスタン)

ロベルト マサミ プラボウォ (ビヌス大学/インドネシア)

[モデレーター]

長友 文子 (和歌山大学国際連携部門 教授)

16:30-17:00

■ 総括

長友 文子

■ 閉会挨拶

足立 基浩 和歌山大学副学長

■ 閉会宣言

[総合司会] 藤山 一郎

[基調講演]

日本語・日本文化の多様性と日本語教育

野田 尚史 (日本大学)

この講演では、日本文化を考慮した日本語教育として(1)と(2)の提案を行う。

- (1) 日本語社会・日本文化で重視されることに合わせた日本語教育
- (2) 日本語・日本文化の多様性に合わせた日本語教育

(1)については、日本語社会・日本文化で重視されることに合わせて、日本語教育でも(3)と(4)のようなことを考える必要があることを述べる。

(3) 日本語社会・日本文化では、音声での伝達より文字での伝達が重視される。たとえば、飲食店ではメニューに詳しい情報が文字や写真で示されている。それに合わせると、日本語教育でも「読む」「書く」教育をさらに強化する必要がある。文字でのコミュニケーションでは漢字が難しいと感じられるかもしれないが、パソコンやスマホなどのツールを駆使すれば、それほど難しくはない。

(4) 日本語社会・日本文化では、言語の産出より言語の理解が重視される。たとえば、日本の「国語」の授業や試験では文章を理解することが重視される。相手に反論するときも、まず「おっしゃることはよくわかりますが」のような表現で相手の言ったことに理解を示した上で、相手の言ったことを踏まえて反論する。それに合わせると、日本語教育でも「聞く」「読む」教育をさらに強化する必要がある。

一方、(2)については、日本語・日本文化が多様であることに合わせて、日本語教育でも(5)のようなことを考える必要があることを述べる。そして、(6)のようなネット上のクチコミを読むための教育と、(7)のようなマンガを読むための教育の具体例を示す。

(5) 日本語では、話しことばと書きことばが大きく違う。また、文章・談話の種類によって語彙も表記も文法も文章構成も大きく違う。さらに、日本語は時代や地域による違いも非常に大きい。個々の学習者の日本語を学習する目的に合わせて、その目的に必要な種類の日本語を中心とした日本語教育を行う必要がある。

(6) 日本語社会ではネット上に詳しいクチコミがたくさんあるが、その文章は日本語教科書に載っている文章とは大きく違う。「美味しい」のような漢字表記が多く、「すげえ」のような話しことば的な語彙がよく使われ、「よくない」ことを表す「どうなのでしょう?」のような疑問表現がよく使われるといった特徴がある。クチコミを読むための教育では、そのような特徴を踏まえた教育が必要である。

(7) 日本語社会にはさまざまなマンガがあるが、マンガで使われる表現は、日本語教科書に載っている表現とは大きく違う。「悪い」という意味を表す「わり」のように実際の発音どおりの表現が使われ、「ばんっ」のような擬音語・擬声語がよく使われ、文字の字体や大きさが声や音の種類や大きさを表すといった特徴がある。マンガを読むための教育では、そのような特徴を踏まえた教育が必要である。

基調講演

日本語・日本文化の多様性と
日本語教育

の だ ひさし
野田 尚史
(日本大学)

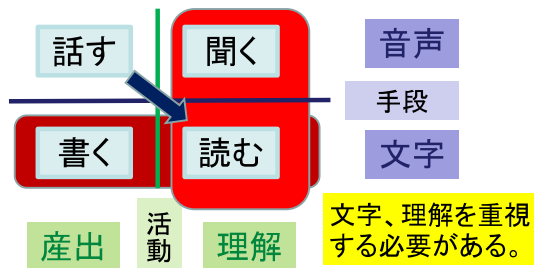
この講演の主張

- (1) 日本語社会・日本文化で重視されることに合わせて
日本語教育を行うのがよいと思う
- (2) 日本語・日本文化の多様性に合わせて
日本語教育を行うのがよいと思う

1

この講演の主張

日本語社会・日本文化で重視されることに合わせて
日本語教育を行う



2

この講演の主張

日本語・日本文化の多様性に合わせて日本語教育を行う

- ・日本語では、話しことばと書きことばが大きく違う。
- ・日本語では、和語、漢語、外来語と語彙が多様で、使い分けられている。
- ・日本語では、ひらがな、カタカナ、漢字と文字が多様で、使い分けられている。
- ・日本語では、敬語や配慮表現が多様で、相手によって使い分けられている。
- ・日本語といっても、時代や地域によって大きく違う。

多様な日本語教育が必要。

3

この講演の構成

日本語社会・日本文化で重視されることに合わせた
日本語教育

音声より文字を重視する日本語教育

産出より理解を重視する日本語教育

日本語・日本文化の多様性に合わせた日本語教育

クチコミを読むための日本語教育

マンガを読むための日本語

4

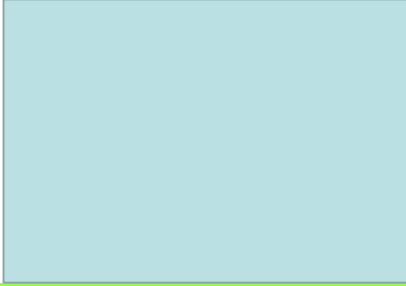
日本語社会・日本文化で重視される
ことに合わせた日本語教育

音声より文字を重視する
日本語教育

5

音声より文字を重視する日本語社会・日本文化

たとえば、日本の飲食店ではほとんどの情報が文字や写真で示されている。



「和食しゃぶしゃぶかごの屋」のメニュー(ネットで閲覧可能)

日本語社会では、文字情報が重要。

6

音声より文字を重視する日本語社会・日本文化

日本語社会と違って、ヨーロッパの飲食店では店員さんがメニューを持ってきた後、その場にそのままいることがよくある。



日本語話者は、注文を急がされているように感じる。

実際には、お客さんから質問があることが多いので、それに対応するため。

日本語社会と違って、音声でのやりとりが重要。

7

音声言語と文字言語を区別する日本語教育

日本語では音声言語(話しことば)と文字言語(書きことば)は大きく違うので、日本語教育では話しことばの教育と書きことばの教育を区別することが重要。

日本語教科書の例文
私は学生じゃありません。

話しことばでも書きことばでもない



話しことばの例文
私は学生じゃないです。

書きことばの例文
私は学生ではありません。

話しことばの教育と書きことばの教育をはっきり区別することが重要。

8

文字言語を重視する日本語教育

日本語では、多くの情報が文字で示されている。また、他人とのコミュニケーションも音声ではなく文字で行われることが多い。



「読む」(文字の理解)教育を重視する必要がある。

- ・ネットのさまざまなページを読む
- ・メニュー、商品の表示、チラシ、掲示などを読む

「書く」(文字の産出)教育を重視する必要がある。

- ・メール、SNS、問い合わせフォームなどの入力
- ・レポート、論文、プレゼンテーション資料を書く

9

「読む」教育をやさしくする

日本語を読むのが難しいと思われていたのは、紙の辞書しかなかった時代のこと。特に読み方のわからない漢字を辞書で調べるのは難しかった。



現在は、ネットの情報など電子化されている文章では、読み方のわからない漢字もコピペで簡単に調べられる。電子化されていない文章も、スマホで写真をとって漢字を調べるアプリで簡単に調べられる。

翻訳サイトの利用などを含め、ネットやアプリを駆使した「読む」教育をすればよい。

10

「書く」教育をやさしくする

日本語を書くのが難しいと思われていたのは、手で書いていた時代のこと。特に漢字の書き方を覚えるのは大変だった。



現在は、手書きが必要なのは氏名や住所くらい。筆記試験を除いて、ほとんどのことはパソコンやスマホを使って書けばよい。漢字は読み方を知っていて、表示される候補から選べればよいだけ。

筆記試験を受ける人以外には、パソコンやスマホを使って「書く」教育だけをすればよい。

11

日本語社会・日本文化で重視される
ことに合わせた日本語教育

産出より理解を重視する 日本語教育

12

産出より理解を重視する日本語社会・日本文化

たとえば、日本の小学校から高校までの「国語」の授業や試験では文章を理解することが重視される。

たとえば、反論するときも、まず次のような表現で相手の言ったことを理解したことを伝え、相手の言ったことを踏まえて反論することが多い。

「おっしゃることはよくわかりますが、
「確かに、それもいいでしょうけど、」

相手の言ったことを理解する必要がある

対比：謝るときにまず言う表現「すみません」などは、言えばよいだけ。

相手の言ったことを理解する必要はない

日本語社会では、言語の理解が重要。

13

産出より理解を重視する日本語社会・日本文化

日本語社会と違って、ヨーロッパ言語の社会では自国語の教育で「話す」や「書く」という産出活動が重視される。

相手の言ったことを理解したうえで反論しなければならないという意識は、日本語社会に比べて、あまりない。

日本語社会と違って、言語の産出が重要。

14

理解教育の遅れ

「話す」「書く」という産出教育では、次のように具体的な言語技術が教えられることが多い。

[浜田麻里・平尾得子・由井紀久子『大学生・留学生のための論文ワークブック』くろしお出版、1997]

- a. 著者の文章を「 」の中に入れ、
著者(公刊年)は「引用文(ページ)」と述べている。

のように書く。著者が有名な研究者であっても「～先生」としたり、敬語を使って「述べておられる」のようにする必要はない。

15

理解教育の遅れ

「聞く」「読む」という理解教育では、次のような問題をさせるだけというのが普通であり、具体的な言語技術が教えられているとは言えない。

[奥田純子(監修), 竹田悦子(他)(編)『読む力 中級』p.3, p.6, くろしお出版, 2011]

[本文(前後省略)]

ボクは日頃から、「環境さえ整ってれば、ボクのような体の不自由な障害者は、③障害者でなくなる」と考えている。

16

理解教育の遅れ

[認知タスク]

1. 下線部③は、どのような意味ですか。適当なものを選びなさい。
 - a. 医療体制が整い、障害を直してもらえるようになる。
 - b. 人に助けってもらわなくても自由に行動することができるようになる。
 - c. 障害に対する認識が変わり、社会から守ってもらえるようになる。
 - d. 皆が助けってくれるようになり、どこにでも自由にいけるようになる。

17

理解を重視する日本語教材

「聞く」「読む」という理解教育でも、次のように具体的な言語技術を教える必要がある。

[ウェブ版日本語読解教材「日本語を読みたい!」, 野田尚史他, 2017- (<https://www.nihongo-tai.com/japanese/yomu/>)]

「薬の袋」

「薬を1回にどのぐらい飲むかを読みとる」

「【スキル2】「1回」とその後の数字から、薬を1回にどのぐらい飲むかを読みとる」

18

理解を重視する日本語教材

次の表現から、薬を1回にどのぐらい飲むかを読みとります。「1回」の後の数字が1回に飲む量です。

- 1回2錠
- 1回1カプセル

読む対象の日本語の文字以外は、すべて多言語(英語・中国語・韓国語)対応

次の表現のように、「1回」の後に「mg」といっしょに数字が書かれていることもあります。その数字は薬の含有量です。1回に飲む薬の量ではありません。

- 1回 タリオン錠10mg 2錠

この後に練習問題

19

日本語・日本文化の多様性に
合わせた日本語教育

クチコミを読むための
日本語教育

20

クチコミの文章の特徴

クチコミの文章というのは、商品を買ったり飲食店や宿泊施設を利用したりした一般の人が商品を使ったり店や施設を利用したりしたときの感想をウェブサイトに書いたもの。日本語社会では、詳しく書かれたクチコミが多い。

クチコミは一般の人が深く考えずに書くことも多く、日本語教科書に載っている文章とは大きく違う。



クチコミを読むことに特化した教育が必要。

21

クチコミの文章の表記

「美味しい」のような漢字表記や、「オススメ」のようなカタカナ表記がよく使われる。「!」や「♪」のような記号類も多く使われる。

「おいしい」の表記

	おいしい		美味しい
一般の文章	3861	>	703
クチコミの文章	114	<	390

クチコミの表記に特化した教育が必要。

22

クチコミの文章の語彙

「すげえ」のような話しことば的な語彙がよく使われる。否定的な評価では、それを間接的に表す「イマイチ」のような語彙が使われる。

肯定的な評価を表す語彙:

満足、最高、旨い、さすが、たまらない、
～のはうれしい

否定的な評価を表す語彙:

イマイチ、微妙、残念、再訪はない

クチコミの語彙に特化した教育が必要。

23

クチコミの文章の文法的表現

「とか」のような話しことば的な表現が多く使われる。「～かと・・・」のような断定を弱める表現や、「どうなんでしょうか？」のような疑問表現もよく使われる。

断定を弱める表現の多さ:

残念ですが、再訪はないかと・・・。

断定を弱める

(「食ベログ」の「あんしえ」のクチコミ)

疑問表現の多さ:

トッピングされてるのは豆苗やね?(汗)
豆苗はどうなんでしょうか?

「私はよいとは思わない」という意味

(「食ベログ」の「ちょうじや」のクチコミ)

クチコミの文法に特化した教育が必要。

24

クチコミの文章の文章構成

短いクチコミでは、「自分たちが食べたり飲んだりしたもの」と「料理や店に対する感想や評価」が書かれている。長いクチコミでは、料理の説明が詳しい。「その店に行った経緯」の説明が詳しいものもある。

クチコミの文章構成:

どちらかが多い

- (1) その店に行った経緯
- (2) 店の紹介
- (3) 自分たちが食べたり飲んだりしたもの
- (4) 料理や店に対する感想や評価
- (5) 店に対するメッセージ

ほぼ必ず。長いクチコミでは詳しい。

ほぼ必ず

クチコミの文章構成に特化した教育が必要。

25

クチコミを読むための日本語教材

クチコミを読むための教材は、次のようにクチコミで使われる日本語に合わせて作成する必要がある。

[ウェブ版日本語読解教材「日本語を読みたい!」、野田尚史他, 2017- (<https://www.nihongo-tai.com/japanese/yomu/>)]

「レストランのクチコミ」

「デザートがおいしいかどうかを読みとる」

「【スキル1】「美味し」と「くな」から、デザートがおいしいかどうかを読みとる」

26

クチコミを読むための日本語教材

次の表現から、デザートがおいしいかどうかを読みとります。

- 美味し
- 美味しくな

読む対象の日本語の文字以外は、すべて多言語(英語・中国語・韓国語)対応

「美味し」の後に「くな」がなければ、おいしいという意味です。「美味し」の後に「くな」があれば、おいしくないという意味です。

この後に練習問題

27

日本語・日本文化の多様性に
合わせた日本語教育

マンガを読むための
日本語教育

28

マンガの表現の特徴

マンガで使われる表現は、小説の会話文より現実の会話に近いとか、擬音語・擬声語がよく使われるといった特徴がある。また、コマを読む順序に規則があるとか、文字の字体や大きさが声の種類や大きさを表すとか、句読点を使わないといった特徴がある。

マンガで使われる表現は、日本語教科書に載っている表現とは大きく違う。



マンガを読むことに特化した教育が必要。

29

マンガで使われる現実の話しことばに近い表現

マンガでは、現実の発音に近い表現が使われる。

わり (←悪い)
んなもん (←そんなもの)
信じらんねえ (←信じられない)

マンガでは、一般には使われない現実の発音に近い表記が使われる。

だよなー (←だよなあ)
てゆーか (←ていうか)
え`え`ええ~~~~~!? (←えええええ!?)

マンガの表現や表記に特化した教育が必要。

30

マンガで使われる吹き出しの形や文字の字体

マンガでは、吹き出しの形によって発言と思考が区別される。作者のコメントは別の形になる。

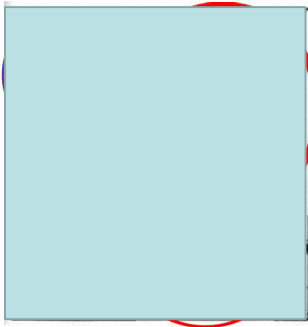


(新川直司『四月は君の嘘①』)

31

マンガで使われる吹き出しの形や文字の字体

マンガでは、吹き出しの文字の字体が違うこともある。



(柘植文『野田と
もうします。(2)』)

マンガを読めるように
するためには、
吹き出しの形や文
字の字体について
の教育も必要。

32

マンガで使われる擬音語・擬態語

マンガでは、擬音語・擬態語がよく使われる。

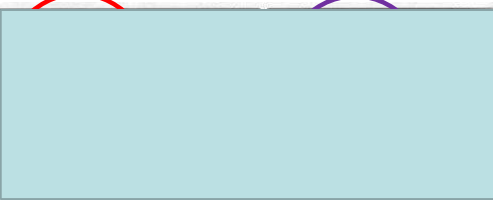


(あずまきよひこ『よつぱと! ①』)

33

マンガで使われる擬音語・擬態語

マンガでは、擬音語・擬態語の文字の字体や大きさによって音の質や大きさを表す。



(あずまきよひこ『よつぱと! ①』)

マンガの擬音語・擬態語についての教育も必要。

34

マンガを読むための日本語教材

マンガを読むための教材は、次のようにマンガで使われる表現に合わせて作成する必要がある。

〔「アニメ・マンガの日本語」, 国際交流基金関西国際センター (<https://anime-manga.jp/>)〕

「Character Expression」

「Character dictionary」

「Samurai」

「Grammar」

35

マンガを読むための日本語教材

CHR ~ぬ

STD ~ない

ENG isn't~ ; don't~ ; can't~ ; won't~

Explanation

動詞の否定活用「ない」のバリエーション。

Example

CHR 1.もう歩けぬ。

STD 1.もう歩けない。

ENG 1.I can't walk any further.

読む対象の日本語の文字以外は、
多言語(英語・スペイン語・韓国
語・中国語・フランス語)対応

音声が入る

36

この講演のまとめ

37

この講演のまとめ

日本語社会・日本文化で重視されることに合わせて日本語教育を行う必要がある。

- ・音声より文字を重視し、「読む」「書く」教育をさらに強化する必要がある。

ヨーロッパ言語の社会では、音声が重視される。その社会の言語教育をそのまま取り入れるのは好ましくない。

- ・産出より理解を重視し、「聞く」「読む」教育をさらに強化する必要がある。

ヨーロッパ言語の社会では、産出が重視される。その社会の言語教育をそのまま取り入れるのは好ましくない。

38

この講演のまとめ

日本語・日本文化の多様性に合わせて日本語教育を行う必要がある。

- ・日本語は話しことばと書きことばが大きく違うほか、文章・談話の種類によって、語彙も表記も文法も文章構成も大きく違う。
- ・個々の学習者の日本語を学習する目的に合わせて日本語教育を行う必要がある。

基本的な語彙や文法を学べばさまざまな日本語能力が得られるわけではない。目的によっては、基本的な語彙や文法の一部は学習する必要がないこともある。

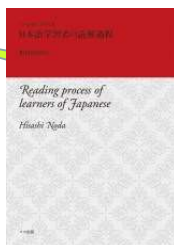
39

主要参考文献

野田尚史(編)(2020)『日本語学習者の読解過程』ココ出版。

野田尚史・中尾有岐(編)(2022予定)『日本語コミュニケーションのための聴解教材の作成』ひつじ書房。
今月下旬刊行

野田尚史・桑原陽子(編)(2023予定)『日本語コミュニケーションのための読解教材の作成』ひつじ書房。



40

付記

次の研究成果である。

国立国語研究所共同研究プロジェクト「日本語学習者のコミュニケーションの多角的解明」

科研費15H01884

41

基調講演 Q&A:野田先生の回答

【Q1】 野田先生が「日本社会」ではなく「日本語社会」と仰るのは、必ずしも地理的に日本の上ではなく、世界の他の地域や、ネット上の社会をお考えになつてのことでしょうか。

回答: そのとおりです。おっしゃるとおり、地理的に「日本」と言えない地域にも「日本語社会」がありますし、逆に日本国内にも外国の方が集住していて「日本語社会」とは言えない地域があります。今回の講演では日本語の問題を中心にお話ししましたので、「日本社会」ではなく「日本語社会」ということばを使いました。

【Q2】 所謂「クチコミの文章」が、通常は学習教材として用いられないのは、表現や語彙、表記等が規範的ではなく、学習者に模倣してほしくないという教育的意図があるかと思います。野田先生は、学習者がそうした文章を模倣して産出した文章には寛容なお立場でしょうか。或いは、「クチコミの文章」は理解に徹することで、産出での模倣を避けられるとお考えでしょうか。／直接話せないのでもどかしいのですが、私は、クチコミのようにレポートを書いて来た大学院生を根本から指導したことがあります。そうした経験も踏まえての質問でした。

回答: 「クチコミの文章」や「マンガの会話」が通常は学習教材として用いられない理由は、おっしゃるとおりだと思います。私はそのような文章や発話の産出に寛容なわけではなく、「聞く」教育と「話す」教育と「読む」教育と「書く」教育の4つを完全に分けるべきだという立場です。

特に初級段階の教材はそうですが、この4つが分けられていないため、学習者も教材に載っている読むための文章を模倣して書こうとしたり、聞くための会話を模倣して話そうとしたりして、弊害が大きいです。「聞く」「話す」「読む」「書く」という4つの教育を完全に分けて、たとえば「クチコミを読む教材」「レポートを書く教材」のように、それぞれの目的を明確にした教材を揃えて教育できれば、クチコミのような書き方でレポートを書くといったことは少なくなるだろうと思います。

今回の講演でもお話ししたように、日本語は話しことばと書きことばの違いが大きいです。また、理解できたほうがよい日本語の範囲と、産出できたほうがよい日本語の範囲も大きく違います。日本語教育は他の言語の教育以上に、4つの教育を分ける必要があると考えています。

【Q3】 クチコミなどは文法が間違っている場合もありますが、その時はどのように対応されますでしょうか？

回答: おっしゃるとおり、クチコミの文章では文法的に間違っている表現が出てきます。かな漢字変換の間違いも多いです。読点が多すぎる文章や読点がまったくないような文章も見られます。

「クチコミを読む」という目的の教育であれば、文法的に間違っている表現の意味を理解したり、かな漢字変換の間違いを見て正しい漢字を推測したりできるようにすることが必要でしょう。

もちろん、自分が書くときにはこのような書き方をしないようにということも伝えたほうがよいでしょうね。

【Q4】日本のマンガやゲームを活用した、“やさしい日本語”の普及は可能だと思いますか？

回答：ご質問の意図を正しく理解できているかどうか不安ですが、一般的論として教育や啓蒙活動にマンガやゲームを活用するのは有効な場合が多いと思います。ただ、他のことではなく“やさしい日本語”の普及のためだから特に日本のマンガやゲームを活用するのがよいということはないように思います。

なお、“やさしい日本語”に対する私の考えは、次の論文に書いています。

- ・野田尚史 (2014) 「「やさしい日本語」から「ユニバーサルな日本語コミュニケーション」へ—母語話者が日本語を使うときの問題として—」『日本語教育』158, pp.4-18, 日本語教育学会.
[https://www.jstage.jst.go.jp/article/nihongokyoiku/158/0/158_4/pdf]

【Q5】ヨーロッパ・欧米の言語文化について比較をされていらっしやいましたが、アジア圏の言語文化については日本の言語文化とどのような違いがありますか？

回答：今回の講演では、言語教育の先進地である欧米の言語・言語教育と日本語・日本語教育を比較しました。アジア圏の言語文化も、日本の言語文化に比べると、全体的には欧米の言語文化に近いものが多いと思います。ただ、アジア圏の中でも東アジア圏、つまり漢字文化圏は「音声より文字を重視する」ことなど、日本の言語文化と共通する点もかなりあります。

なお、日本語学習者の日本語をもとに日本以外の言語文化と日本の言語文化の違いに触れている私の論文に次のようなものがあります。どちらの論文でもアジア圏の事例が多く取り上げられています。

- ・野田尚史 (2012) 「配慮したつもりなのによい印象を与えない日本語非母語話者の言語表現・言語行動」, 三宅和子・野田尚史・生越直樹(編)『「配慮」はどのように示されるか』 pp.131-152, ひつじ書房.
- ・野田尚史 (2022) 「日本語学習者の配慮の表現・行動から出発するコミュニケーションの対照研究」, 窪菌晴夫・朝日祥之(編)『言語コミュニケーションの多様性』 pp.101-121, くろしお出版.

事例発表

日時：2022年3月5日（土）14:50-15:50

事例発表1：スリランカ日本語教育における日本文化

ディルルクシ ラトナーヤカ
ケラニヤ大学／スリランカ

Dilrukshi Rathnayake
University of Kelaniya, Sri Lanka

事例発表2：日本語と学生の意識

イブラギモヴァ マリカ
ウズベキスタン国立世界言語大学

Ibragimova Malika
Uzbek State World Languages University, Uzbekistan

事例発表3：ビナヌサンタラ大学における日本文化と日本語教育

リンダ ウンスリアナ
ロベルト マサミ プラボウォ
ビナヌサンタラ（ビヌス）大学

Linda Unsriana
Roberto Masami Prabowo
Bina Nusantara (BINUS) University, Indonesia

事例発表4：ブルネイ・ダルサラーム大学における日本文化理解への取り組み —日本語学習者と日本文化愛好クラブの事例—

秋田 有紀
ブルネイ・ダルサラーム大学

Yuki AKITA
University Brunei Darussalam, Brunei Darussalam

[事例発表1]

スリランカ日本語教育における日本文化

ディルルクシ ラトナーヤカ (ケラニヤ大学/スリランカ)

1. 発表の背景・目的

本稿の目的はスリランカ日本語教育における日本語文化が占める割合はどの程度あるか明らかにすることにある。

2. 発表の概要

2.1 スリランカ中等教育における日本文化

スリランカの高校生は分野別主要3科目を学習することができる。日本語は文科系の1科目であるため、ほかに選択できる科目は文科系の科目からとなる。高校生は基本的に一年間300コマ¹(200時間)として、2年間600コマ(400時間)を高校で勉強する。高校生は勉強している内容を能力別に分けて以下の表に示す。

表1: 12年生 13年生の目指す能力別時間配分

	能力	コマ数・時間数		
		12年生	13年生	合計コマ数
01	音声や文字を知る、使う能力	30		30 (20時間)
02	必要な情報を聞き取る能力	27	27	54 (36時間)
03	効果的に口頭でコミュニケーションする能力	45	45	90 (60時間)
04	文法能力	75	78	153 (102時間)
05	漢字の能力	33	51	84 (56時間)
06	書く能力	21	24	45 (30時間)
07	読む能力	30	33	63 (42時間)
08	日本語からシンハラ語に翻訳する能力	15	9	24 (16時間)
09	非言語コミュニケーション能力	15	9	24 (16時間)
10	日本社会、文化についての基本的な知識	9	9	18 (12時間)

高校生が学んでいるシラバスを検討すると、2年間の400時間の中で日本文化が勉強できるのはわずか28時間のみである。

¹ 1コマ40分である。

2.2 スリランカの大学における日本文化

スリランカでは、6つの大学で日本語を教えているが、その中でケラニヤ大学とサバラガムワ大学は日本語は専攻科目として勉強できる。日本語専攻の学習者は合計で100単位²を取得することになっている。その中で日本文化を教える単位数と時間数は以下の表に示す。

表2：ケラニヤ大学とサバラガムワ大学ー日本語専攻

学年	ケラニヤ大学	サバラガムワ大学
一年生	2単位 30時間	なし
二年生	5単位 75時間	6単位 90時間
三年生	5単位 75時間	6単位 90時間
四年生	なし	なし
合計	12単位 180時間	12単位 180時間
ケラニヤ大学大学院	4単位/25単位 4×15週間	60時間

ケラニヤ大学とサバラガムワ大学で日本語を勉強している学習者には、日本語関係の多様な科目の中で、日本文化を教えるのに180時間をかける。それは全体の時間数の12%である。大学院の日本語コースでは全体の単位数の中から4単位は文化教育にかける。それは全体の16%になる。以上に示したようにスリランカ日本語教育における日本文化は、全体の12%または16%程度で、日本語でのコミュニケーションを行うために十分ではないと考えられる。


3. まとめ

本稿はスリランカ日本語教育における日本文化の割合についてまとめたものである。スリランカは日本語教育の歴史が長く、日本語でコミュニケーションができる高い日本語能力また日本文化能力を獲得することを目指し、日本語が教えられている。とは言えども、日本文化を教えている時間数、コマ数からすると、決して十分とは言えない。中等教育も高等教育もほとんど同じであると考えられる。

² 大学では1単位は15時間になる。

スリランカ日本語教育における日本文化

ディルルクシラナーヤカ

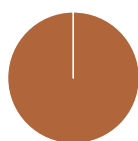
ケラニヤ大学 

スリランカにおける日本語教育

- 中等教育
 - ・中学校
 - ・高校
- 高等教育
 - ・大学
 - ・大学院

文化を教える時間数

高校カリキュラムで各科目へ時間配分



文化は12時間
合計400時間

■文化 ■他

	コマ数・時間数		
	12年生	13年生	合計
01 音声や文字を知る、使う能力	30		30 (20時間)
02 必要な情報聞き取る能力	27	27	54 (36時間)
03 効果的な口頭でコミュニケーションする能力	45	45	90 (60時間)
04 文法能力	75	78	153 (102時間)
05 漢字能力	33	51	84 (56時間)
06 書く能力	21	24	45 (30時間)
07 読む能力	30	33	63 (42時間)
08 日本語からシンハラ語に翻訳する能力	15	9	24 (16時間)
09 非言語コミュニケーション能力	15	9	24 (16時間)
10 日本社会、文化についての基本的な知識	09	9	18 (12時間)

大学・大学院

- ・一年生 5時間
(単位なし)
- ・専攻一年生 60時間
(4単位)
- ・専攻二年生 60時間
(4単位)
- ・専攻四年生 (単位なし)

(Postgraduate Diploma in Japanese)

- ・合計の単位数 25 (375時間)
- ・文化の単位数 5単位 (75時間)

全体として文化を教える時間数は少ない

内容 ◀ 中等教育

日本事情

- 食べ物
- 衣類
- 家
- 交通
- 日本の地理と気候
- 日本のマナー

日本人を知る

- 挨拶
- 非言語行動

- 席次
- パーソナルスペース
- 身だしなみ

日本事情 - 食べ物

日本の食べ物
朝・昼・パンご飯
食事のマナー



衣類



内容 ◀ 大学

日本語専攻

- 異文化間コミュニケーション
- 社会・文化を知るコンセプト
- 価値観比較
- 非言語的コミュニケーション比較
- 場面分析
- ケーススタディー

一年生
日本事情
高校で習った内容を発展させる
挨拶

価値観比較

- スリランカ人の価値観
 - 宗教を大事にする
 - おもてなし
- 日本人の価値観
 - おもいやり
 - おもてなし

伝統的な価値観
現在の価値観

文化を教えるのに配分している時間数が非常に少ないことからスリランカ日本語教育ではまだ文化に関する意識が満足できるレベルにありません。

しかし、内容は日本事情を知るだけではなく日本人と接するときに必要な内容をも考察に入れているため、学習者が日本語でコミュニケーションができると考える。

[事例発表2]
日本語と学生の意識

イブラギモヴァ マリカ（ウズベキスタン国立世界言語大学）

1. 発表の背景・目的

ウズベキスタンの大学における日本語を専攻の入学者数は年々増加している。ウズベキスタン国立世界言語大学の日本語専攻の教育は2014年に始まった。本報告では日本語を知らずに入学した多くの学生が日本語教育を受けることにより、どう変わっていくのか考える。

2. 発表の概要

日本語を専攻した入学者の意識は入学以降、在学中にどう変わっているか、卒業後の目的などを調べるため1-4年生（17歳から26歳まで）を対象に記述式のアンケート調査を行った。回答者は209名中130名（60.2%）であった。アンケートの質問は以下である。

- 質問1 なぜ大学の専攻として日本語を選んだか。
- 質問2 日本語の勉強はあなたにどのような影響を与えたか。
- 質問3 もし、また専門を選ぶ機会があれば、日本語を選択するか。
- 質問4 大学卒業後は、どんな仕事をしたいか。

質問1の最も多い回答（75名）をまとめると「日本語、日本、日本の文化、伝統、歴史、経済、文学、自然などに関心があったから」になる。次に多い回答は「先生、友達、兄、父に勧められたから」（10名）である。大学の専攻は重要な選択なので、高校の先生に相談したり、父や兄など家族の中で決定権のある存在に相談したと思われる。友達は当大学の学生のようなので、先輩が教育に満足していると推測できる。

また、入学試験の1つに英語があるため、英語が上手な学生が多く、「特に日本語ではなく、新しい言葉やアジアの言葉を勉強したかった」という意味を読み取れる回答（10名）もあった。残念ながら「入学点数が低かったから」という回答（10名）もあったので、昨年の入学点数を調べたところ、人気のあるアジアの言語の内、日本語は韓国語、中国語に続き3番目であった。その理由は卒業後の就職先、言語の難しさから敬遠されたからだと思われる。

以下の回答も取り上げたい。

- ・日本のIT分野を勉強するため。（2年生、男、19歳）
- ・日本語教育をウズベキスタンの隅々まで広げて、日本のような発展国にしたい。（2年生、男、21歳）
- ・子供の頃よくアンパンマンを見ていた。高校の授業の時には歴史の先生が昔と現代の日本についてたくさん面白い話をしてくれたから。（3年生、女、20歳）
- ・黒澤明の映画や禅仏教の影響を強く受けたから。（3年生、女、19歳）

質問2の回答をまとめると「日本語、日本、日本文化などの関心の増加」(36名)、「肯定的な影響」(11名)と全般的な回答をした学生もいたが、「時間を守るように、効率的に使うようになった」(13名)、「努力するようになった。もっと勉強するようになった」(9名)、「人間として成長した」(6名)など具体的に答えた学生がたくさんいた。その回答のキーワードである「努力」、「責任」、「我慢」、「丁寧」などは日本の社会で求められている価値観である。その回答からは欠席、遅刻、宿題などの提出に厳しい当大学の日本語教育システムが日本人と仕事ができる人材の育成に役立っていると思われる。「精神的に強くなった。勉強の苦労は成長に繋がることが分かった。」のような回答からは学生が教育環境に満足し、成長していることが見えてくる。

質問3の回答もその回答と繋がっている。殆どの学生が「はい」と回答し、代表的な答えは「間違いなく選ぶと思う。最も重要な理由は、私にとって温かくて親しみやすい環境を作ってくれている学部と先生方だ。その環境の中で私自身が勉強したい、成長したい、努力を100%搾り出した気持ちが終わらない。」である。この回答から日本語教育の環境、教師の熱意が学生に高く評価されていると理解できる。しかし、予測通り「いいえ」と答えた学生もいた。その理由は「日本語、漢字が難しい」、「勉強に時間がかかる」であった。

質問4の卒業後の職業に関する回答で一番多かったのが「教師」(42名)、「通訳」(42名)、次いで「大使館で働きたい」(15名)、「観光関連の仕事、ガイド」(11名)であった。「まだ分からない」と答えた学生もいた。「漫画家」、「キャビンアテンダント」などの回答もあった。

3. まとめ

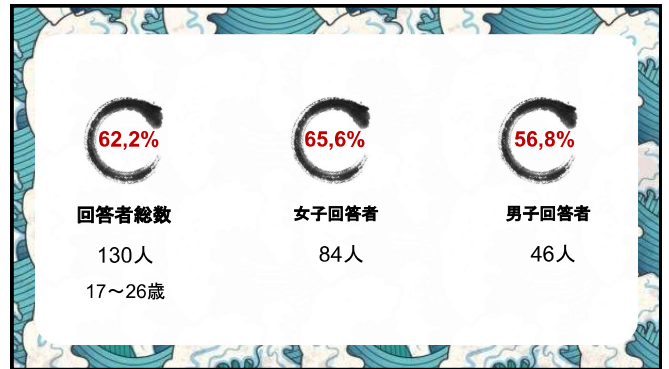
アンケート調査の結果は日本語が難しい故に多少不満を持っている学生(7%)もいるが、多くは満足している。その理由は日本語学習を通し、学生が日本の文化、価値観などに影響されると共に当大学における日本語教育の環境だと思われる。ウズベキスタンの大学の場合は日本語以外に日本地理、日本史、日本文学史などの科目もある。それに加え当大学の独自の日本語教育システム、仕事に対する教師の熱意も大きく影響していると学生のアンケート調査から読み取れる。日本語教師は母国のため単なる専門家育成ではなく、若者を育てる重要な役割を果たしていると思われる。

日本語と学生の意識

— Ibragimova Malika —



209人	128人	81人
学生総数	女子学生	男子学生
1年生 110人	1年生 69人	1年生 41人
2年生 45人	2年生 22人	2年生 23人
3年生 36人	3年生 24人	3年生 12人
4年生 18人	4年生 13人	4年生 5人



- 一 なぜ大学の専攻を日本語にしたか。
 - 二 日本語の勉強はあなたにどのような影響を与えたか。
 - 三 もし、また専門を選ぶ機会があれば、日本語を選択するか。
 - IV 大学卒業後はどんな仕事をしたいか。
-

質問一

なぜ大学の専攻を日本語にしたか。

質問 I ● 回答



▲ 75 人 ▼

日本語、日本、日本の文化、伝統、歴史、経済、文学、自然などに関心があったから。

質問一 ● 回答



▲ 10 人 ▼
先生、友達、兄、父などに勧められたから。

▲ 10 人 ▼
英語はできるので、新しい言葉が勉強したかったから。

▲ 10 人 ▼
入学点数が低かったから。

入学点数


● 2020-2021年



中国語	148.5
韓国語	151.2
日本語	145.2

▲ 10 人 ▼
入学点数が低かったから。

質問一 ● 回答



▲ 6 人 ▼
すでに日本語を勉強していたから、続けたかった。

▲ 5 人 ▼
日本へ留学したかったから。

▲ 3 人 ▼
難しい言葉を勉強したかったから。

質問一 ● 回答

日本のバレーボールに高い関心があり、日本語を勉強して、このスポーツの分野でウズベキスタンと日本の関係を発展させたいという目的のため。
2年生、男、19歳

日本のIT分野の勉強をするため。
2年生、男、19歳

日本語教育をウズベキスタンの隅々まで広げて、日本のような発展国にしたい。
2年生、男、21歳

質問一 ● 回答

子供の頃よくアンパンマンを見ていた。高校の授業の時には歴史の先生が昔と現代の日本についてたくさん面白い話をしてくれたから。
3年生、女、20歳

日本の文化と美しい自然を見たいから。
1年生、男、18歳

黒澤明の映画や禅仏教の強い影響を受けたから。
3年生、女、19歳

質問二

日本語の勉強はあなたに
どのような影響を与えたか。

質問二 ● 回答

36人

日本語、日本、日本文化な
どの関心の増加

11人

肯定的な影響

質問二 ● 回答

責任 4人
責任感の向上

我慢 5人
我慢強くなった。

努力 9人
もっと勉強するようになった。

時間 13人
時間を守るように、
効率的に使うようになった。

質問二 ● 回答

記憶力 5人
記憶力の向上

丁寧 5人
丁寧に話すようになった。
お辞儀するようになった。

成長 6人
人間として成長

世界観 9人
世界観が広がった。変わった。

誇 精神的に強くなった。勉強の苦労は
成長に繋がるのが分かった。
2年生、男、20歳

喜 アニメが日本語で見られるよう
になって嬉しい。
1年生、女、18歳

質問三 ● 回答

もし、また専門を選ぶ機会が
あれば、日本語を選択するか。

漢字があるから。

難しいから。

時間がかかるから。

9人

質問三回答 ● いいえ

質問三回答 ● はい

間違いなく選ぶと思う。第一の最も重要な理由は、私にとって温かくて親しみやすい環境を作ってくれている学部と先生方だ。その環境の中で私自身が勉強したい、成長したい、努力を100%搾り出したい気持ちが終わらない。

2年生、男、20歳

質問四 ● 大学卒業後はどんな仕事をしたいか。

質問四 ●

質問四 ● 回答

通訳 42人

教師 42人

質問四 ● 回答

15人 大使館で働きたい。

11人 観光関連の仕事、ガイド

10人 まだ分からない。

8人 大学院へ進学

8人 日本で働きた

8人 日本へ留学

質問四 ● 回答

2人 IT専門家

1人 バレーボールのコメンテーター

1人 日本の会社の金融専門家

1人 HR専門家

1人 キャビンアテンダント

1人 3Dデザイナー、不動産、物流会社を作る

1人 漫画の画家

まとめ

- 1 日本語教育の環境、教師の熱意
- 2 学生は日本語の勉強を通じ、日本の文化、価値観などに影響される。
- 3 日本語以外の日本地理、日本史、日本文学史などの科目もある。

まとめ

専門科目の役割

日本語、日本関係の科目のお陰で日本の文化、メンタリティーの価値感が学生の成長に繋がっている。

教師の役割

当大学の日本語教育は単なる専門家育成ではなく、若者を育てる重要な役割も達成している。

1年生

2年生

2年生

ご清聴、ありがとうございました。

ビナヌサンタラ大学における日本文化と日本語教育

リンダ ウンスリアナ、ロベルト マサミ プラボウォ（ビヌス大学／インドネシア）

1. 発表の背景・目的

2018年に国際交流基金が実施した調査によると、インドネシアには約709,479名の日本語学習者がいる、と報告されています。この数は、世界で2番目に多い人数となっています。この日本語学習者数の多さの背景には、東南アジアにおける日本や日本文化への関心を切り離すことができないことも、報告されています。日本文化（歴史、文学、芸術）への関心は51.3%に達し、ポップカルチャー（アニメ、マンガ、J-POP、ファッション）への関心は65.1%に達しています。

こうした調査結果を元に、本学生の日本語学習に対する意識調査を実施したいと考えました。

2. 発表の概要

2018年に国際交流基金が実施した調査結果には、日本文化への関心が非常に高いことが分かっています。本学生は、どのような意識を持っているのか、アンケートを実施しました。

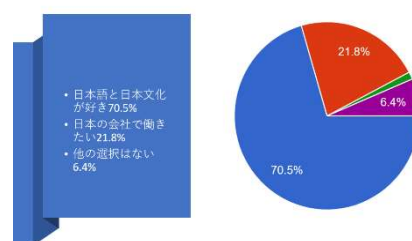


図1 アンケート結果

設問：なぜ日本語学科に進学しようと思ったのですか。

アンケート結果からも分かるように、日本語学科を専攻した理由として7割以上の学生が「日本語と日本文化が好き」と答えています。また、20%程度の学生においては、「日本の会社で働きたい」という目標を持っているために、本専攻を選んだ、と言えるでしょう。このように、本学専攻を選ぶ上で日本語と日本文化への興味関心が非常に高いということが、本学生にも当てはまることが分かりました。

2020年以降、本学は大々的なカリキュラム編成が行われました。これまで、4年間を通して、日本語学習に集中して学ぶカリキュラムでした。しかし、「2+1+1（ツープラスワンプラスワン）」と言う、初期の2年間は、これまで同様日本語学習に集中した科目を、その後の1年間は個別に「選択科目」を履修し、最後の1年間は、「エンリッチメントプログラム」と呼ばれ、研究コース、社会貢献コース、起業コース企業等へのインターンシップコース、国外への留学コース、自主選択コース（Further Study）があります。

以上の6つのコースを、自ら選択し学習の糧とします。このカリキュラムを行うことにより、2年間の日本語学習時数を減らすこととなりました。本学生にとって、このプログラムは、社会へ出る前の準備として貴重な実践の場として位置付けられ、本学生の活躍が期待できる大きな一歩である、と確信しています。

しかしながら、それと同時に、日本文化言語や日本に関連する情報を提供する授業時間が減ってしまったことに対応する必要が出てきました。

第一に、我々が考えたことは授業内容の精選でした。日本語学習の中に、日本文化的なテーマを含んだ会話演習をするようにしました。

第二に、インターネットを活用し様々な動画コンテンツを活用することです。本学生の自主

学習においても、YouTube、語学習得アプリ、ポッドキャストを利用している、と聞きました。YouTube においては、バーチャル学校と言っていいほど、様々な日本語指導者が溢れています。例えば、「森のサイト」、「じゃぼすた」、「Duolingo」、「Todai Easy Japanese」など挙げたらきりがなほどもあります。さらに、「Nobita from Japan」や「Vice」や「Paolo From Japan」など日本人のユーザーを閲覧することで、生きた日本語を学ぶことができると期待できます。

このように、インターネットには身近で安価な、かつ自分に合った「教材」を見つけ、学ぶことができるのです。我々教員も、日々こうした日本語の教材研究を行い、生きた日本語教材の再考を図っています。もちろん、紙媒体の教科書も継続して使用します。例えば、本学では国際交流基金が展開する「まるごと」シリーズを活用しています。我々が最も大事にしていることは、教材に日本文化の要素がいかにも組み込まれているか、という点です。例えば本テキストには、「祭り」というテーマがあります。日本の祭りと言っても、四季それぞれ、様々な地域に渡ってありますが、「お盆」、「盆踊り」など1つの祭りに対し関連した内容が含まれています。また、「正月」、「成人の日」、「七夕」、「雛祭り」のように日本人が大切に受け継いでいる伝統的な祭りが取り上げられています。これらの文化を、会話演習の中のトピックとして含め、語彙力、知識、異文化理解へと繋げていくことができるのです。

3. まとめ

本学生へのアンケート結果から、「日本語と日本文化が好き」という理由で日本語を学ぶきっかけとなったことが明らかになりました。

本学の時代に合わせた大胆なカリキュラム編成は、日本語学習時間数を減らしてしまった一方で、現代に合わせた手段を構築するきっかけにもなったと言えます。学生自身が自ら選択し、必要なものを手に取り、学ぶ。授業においては、それらの基礎基本を成す適切な教科書を提示し、会話演習の中に日本文化を含めることで、大学の授業と学生の自主学習とがリンクし新たな学びを創造していくことができる、と期待できます。

躍動的に変化するこの時代に、我々教員は学生らにこれまで求めてきた能力と、これから必要とする能力を、常に見極め指導していくことがより重要な課題となっていくでしょう。こういった課題と向き合いながら、本学を卒業していく学生が、日本とインドネシアの間で活躍の場を広めていくものだろう、と目標を持って本稿を終わらせていただきます。

[参考文献]

- Bina Nusantara University. (n.d.). Program 2+1+1, Sistem Pembelajaran Inovatif yang Cuma Ada di BINUS, Apa Itu? from <https://binus.ac.id/2021/06/program-211-sistem-pembelajaran-inovatif-yang-cuma-ada-di-binus-apa-itu/>
- Irfan Hakim. (2018). Peranan Japan Foundation dalam Menyebarkan Kebudayaan Jepang di Indonesia tahun 2013-2015. http://elib.unikom.ac.id/files/disk1/697/jbptunikomppgdl-irfanhakim-34809-1-unikom_i-1.pdf
- Japan Foundation. (2014). Marugoto Bahasa dan Kebudayaan Jepang Tingkat Dasar 2 A2. Kesaint Blanc Publishing.
- Ministry of Foreign Affairs of Japan. (2021). Cultural Exchange Japanese Language Education. https://www.mofa.go.jp/policy/culture/exchange/j_language/index.html
- SURVEY REPORT ON JAPANESE-LANGUAGE EDUCATION ABROAD 2018. (n.d.) from https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/result/dl/survey2018/Report_all_e.pdf



ビナ Nusantara 大学における日本文化と日本語教育

Linda Unsriana
Roberto Masami

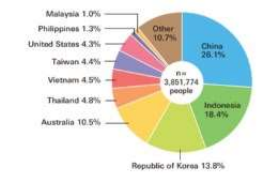
Japanese Department, Bina Nusantara University

●●●●

導入

- インドネシアには約 709,479人の日本語学習者がいる。
- 世界で2番目に多い

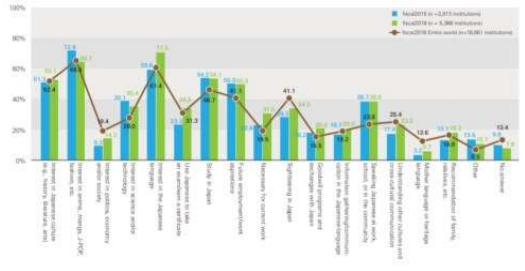
Percentage of Japanese Learners in each country



Country	Percentage
China	28.1%
Indonesia	18.4%
Republic of Korea	13.8%
Australia	10.5%
Thailand	4.9%
Vietnam	4.5%
Taiwan	4.4%
United States	4.3%
Philippines	1.3%
Malaysia	1.0%
Other	10.7%

Total: 3,853,774 people

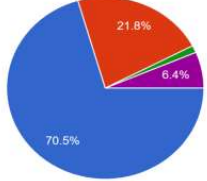
東南アジアにおける日本語学習者の目的



Legend:
 ■ No.2019 (n=12,017 respondents)
 ■ No.2018 (n=6,380 respondents)
 ■ No.2016 (n=10,881 respondents)

アンケート結果 1

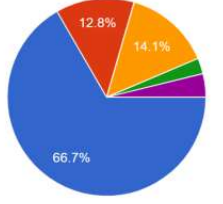
設問 1 : なぜ日本語学科に進学しようと思ったのですか。



- 日本語と日本文化が好き 70.5%
- 日本の会社で働きたい 21.8%
- 他の選択はない 6.4%

アンケート結果 2

設問 2 : 日本語と文化が好きなのは、なぜですか。



日本語と文化が好きな理由

- ドラマ、アニメ、漫画 (66.7%)
- アイドル、音楽 (14.1%)
- ゲーム (14.1%)
- 自動車産業、電気製品

ビナ Nusantara 大学におけるカリキュラム編成

- 2020年に実施
- 2 + 1 + 1 に変更

【エンリッチメントの6つのコース】

- 1 研究コース
- 2 社会貢献コース
- 3 起業コース
- 4 企業等へのインターンシップコース
- 5 国外への留学コース
- 6 自主選択コース (Further Study)

2+1+1カリキュラム

- 1年間 エンリッチメントプログラム
- 1年間 選択科目
- 2年間 基礎基本 日本語学習

学生へのインタビュー

自主学習として日常的に使用している教材は、なんですか。

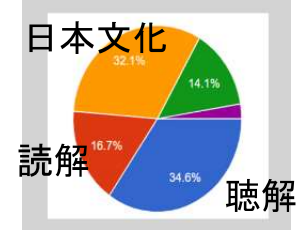
- > YouTubeを視聴する
- > 日本人YouTuberを閲覧する
- > 語学習得アプリを活用している
- > 日本語のポッドキャストの聴取

7

アンケート結果 3

設問3：日本語と日本文化の内容が最も多い科目は、何ですか。

科目名
聴解と会話・・・34.6%
日本文化・・・32.1%
読解・・・16.7%



8

アンケート結果 4

設問4：テキストの「まるごと」から、日本文化について学ぶことができたと思いますか。



9



アンケート結果 5

設問5：
会話を伸ばすために、「まるごと」に掲載されている日本文化についてもっと学びたいと考えますか。



学生の日本文化に対する関心が高い

11

アンケート結果 6

設問6：
科目の「会話」では、さらに多くの日本文化に関するテーマを求めていますか。



12

まとめ

- 日本語学科を選択する理由は、「日本語と日本文化が好き」だからである。
- カリキュラム編成は、教科書の精選を促し、文化的な学習を含めた授業の創造につながった。
- 日本文化をとり上げた学習内容を、学生も要求している。
- 自主学习において、デジタル教材を活用し、より興味関心の高まる学習方法を見出した。

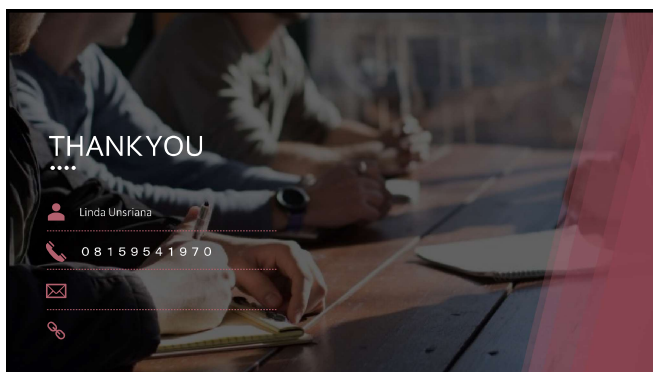
大学の役割
適切な教科書を提供し、会話演習の中で日本文化を含めていくこと。

13

参考文献

- Irfan Hakim, Peran Japan Foundation dalam Menyebarluaskan Kebudayaan Jepang di Indonesia tahun 2013-2015. Universitas Komputer Indonesia, diakses dalam http://elib.unikom.ac.id/files/disk1.697/jpnuinkomppgl-irfanhakim-34809-1-unikom_4.pdf (03/1/2021, 13:48 WIB)
- Japan Foundation, 2020. SURVEY REPORT ON JAPANESE-LANGUAGE EDUCATION ABROAD 2018
- https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/result/dl/survey2018/Report_all_e.pdf
- Japan Foundation, 2014. まるごと日本のことばと文化の級 2 A2 リカい。Kesaint Blanc Publishing
- <https://ojs.us.ac.id/2021/06/program-211-sistem-pembelajaran-inovatif-yang-cuma-ada-di-bimv-apa-itu/>
- Ministry of Foreign Affairs of Japan, April 2021
https://www.mofa.go.jp/policy/culture/exchange/j_language/index.html

14



ブルネイ・ダルサラーム大学における日本文化理解への取り組み —日本語学習者と日本文化愛好クラブの事例—

秋田 有紀 (ブルネイ・ダルサラーム大学)

1. 背景・目的

ブルネイ・ダルサラーム大学は、国内唯一の総合大学であり、日本語が学べる唯一の高等教育機関である。本学の日本語教育は、語学センターにて選択科目として2001年に開始された。毎学期100人以上の学生が日本語を履修しており、抽選に漏れて日本語が履修できなかった学生たちが更に約100人いるなど、中国語、韓国語に並び日本語は人気科目の一つである。日本語学習者に実施したアンケート結果によると、日本語履修理由は「日本の伝統文化やポップカルチャーに興味がある」が28%、「日本に旅行に行った時に日本語で話したい」が25%と上位を占め、この二つが日本語学習の大きな要因となっている。他方で、「日本に留学したい」が11%、「日本で働きたい」が7%と少なく、大学で日本語を学んでもそれを日本留学へつなげたり、将来のキャリアに生かしたいと思っている学生は少ないことがわかる。本報告では、ブルネイ・ダルサラーム大学における日本文化理解への取り組みを、3つの事例に分けて報告する。また、日本文化を日本語授業内で取り入れる際の課題と今後の展望を述べる。

2. 発表概要

1) 日本語授業内での日本文化紹介

初中級クラスでの「日本文化」は、日本とブルネイの文化や習慣を比べ、共通点や相違点を認識することを目的としている。各課が終わった後、授業の最後の10分を日本文化を学ぶ時間としている。初級クラスでは学生たちが学びたいテーマを選び、教師が紹介するという形をとっており、中級クラスでは各学生がテーマを選んで発表するという形をとっている。

2) End of the Term Activity での日本文化体験

学期の最後の授業は、日本文化体験の時間としている。その目的は、1) 実際に体験することにより、より深く日本文化を理解すること、2) 楽しい文化体験を通して日本語学習を続けるモチベーションにすることである。一学期ごとの選択科目ゆえに、たった一学期間だけ日本語を学んで辞めていく学生が多い。なんとか次の学期も続けて欲しいという願いを込めて実施している。

3) 日本文化愛好クラブの活動

約40名の部員で成り立つ日本文化愛好クラブは、大学内に多数あるクラブの中で最も活

発であり最も歴史の長いクラブである。学部や学科を超えて日本文化が好きな学生たちが集まり、毎週精力的に活動している。スポーツ部門、伝統文化部門など5つの部門に分かれており、部員たちはそれぞれ興味、関心のある部門に所属し、同じ部門の仲間と専門知識に磨きをかけ、クラブ活動内では他部門の部員にその知識を伝授、共有するという活動システムをとっている。

4) 課題と今後の展望

課題としては以下の点が挙げられる。

- ・授業内で文化を扱える時間が短い
- ・日本人教師不足
- ・イスラム教国であり独裁国家でもあるため、センシティブなテーマは掘り下げにくい
- ・備品の調達が難しい

今後実現してみたいこととして、茶道や華道などのオンラインライブでの文化体験があげられる。常に情報源がネットリソースに限られているため、専門家の所作をライブで見るという体験は新鮮で、近い将来実現させたい。また、学生たちからはアニメーションや漫画の書き方など、オンラインでプロの指導を受ける機会が欲しいという要望もでてい

3. まとめ

ブルネイ・ダルサラーム大学での日本語学習者は、選択科目として日本語を「選んで」いる。日本語を履修しなくても卒業できる環境にありながらわざわざ日本語を選択し学ぶ学生たちは、ほとんどがやる気に満ちており日本への興味関心も高い。一方で、主専攻の勉強が大変、日本語は思ったより難しいなどの理由で簡単に辞めていく学生も多い。本校において日本語学習に日本文化を取り入れる理由や目的は、異文化理解はもちろんのこと、学習モチベーション維持を図る点が大いなのが実情である。時間、リソース、備品調達などのリミテーションやセンサーシップの問題などクリアすべき課題はあるが、今後日本の大学生とオンライン日本文化交流を実施するなど、工夫次第でできることは未知数だと確信している。また、自国にいながら様々な日本文化に触れることができるよう、VR を駆使して仮想空間内で体験できる可能性も探っていきたい。

[参考文献]

国際交流基金 (2020) 「日本語教育・地域別情報 (ブルネイ)」

<https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/area/country/2020/brunei.html> (参照 2021-03-01)

Akita, Y. (2017). Motivational and perception changes in learning Japanese in Brunei Darussalam. *Border Crossing* Vol.7, No2.

UNIVERSITI BRUNEI DARUSSALAM

ブルネイ・ダルサラーム大学における日本文化理解への取り組み

-日本語学習者と日本文化愛好クラブの事例-

ブルネイ・ダルサラーム大学
日本語講師
秋田有紀

UNIVERSITI BRUNEI DARUSSALAM

ブルネイ・ダルサラーム大学

Universiti Brunei Darussalam (UBD)

所在地
・東南アジア（ボルネオ島）


言語センター
・9言語
・選択科目

日本語
・大人気科目
・毎学期約100人が履修
・日本人日本語教師1人
ブルネイ人非常勤日本語教師1人



UNIVERSITI BRUNEI DARUSSALAM

日本語履修理由（回答者85人）



理由	割合
日本の伝統文化やポップカルチャーに興味がある	28%
日本に留学したい	13%
日本人の友達と日本語で話したい	11%
単位取得のため	8%
日本で働きたい	7%
日本の新聞、雑誌、本に興味がある	5%
その他	5%
日本の伝統文化やポップカルチャーに興味がある	25%

UNIVERSITI BRUNEI DARUSSALAM

日本文化理解への取り組み -事例紹介-

- 1 日本語授業内での事例
- 2 End of the Term Activityの事例
- 3 UBD日本文化愛好クラブの事例

UNIVERSITI BRUNEI DARUSSALAM

日本語授業内での取り組み

・各課が終わった後、授業の最後の10分
・<目的>日本とブルネイの文化や習慣を比べ、共通点や相違点を認識する。

テーマ例：
-交通機関
-年中行事
-習慣や制度、ジェスチャー
-武道
-皇室制度
-日本の教育制度
-歌舞伎
-日本の家
-コンビニ
-メイドカフェ
-ねこカフェ
-祭り
-神社
-日本のハラルフード事情
など

初級クラス
・テーマは学生が選ぶ
・教師が紹介
・3分内の動画視聴
・Q&A/ディスカッション

中級クラス（学生主体）
・テーマは学生が選ぶ
・PPT1枚にまとめて発表
・Q&A/ディスカッション


UNIVERSITI BRUNEI DARUSSALAM

End of the Term Activity

・学期の最後の授業 -日本文化体験-

<目的>
-実際に体験することにより、より深く日本文化を理解する。
-楽しい文化体験を通して、日本語学習を続けるモチベーションにする。


テーマ例：
-餅つき
-流しそうめん
-手巻き寿司/押し寿司
-着付け(浴衣)
-書道
-折り紙
-声優(アフレコ)
-寸劇
など




End of the Term Activity(オンライン)


- ・折り紙
- ・好きなJ-popを発表→動画視聴
- ・WhatsApp のスタンプを作る
- ・料理動画を作成して発表する





UBD日本文化愛好クラブ
 Brunei Japan Friendship Association (BJFA) UBD-Chapter

BJFA UBD Chapter

MAGEC部門 (Manga, Anime, Game& Entertainment)	日本料理部門	伝統文化部門	ゲーム・ スポーツ部門	ダンス部門
<ul style="list-style-type: none"> ・漫画作成 ・アニメーション ・映画鑑賞 ・オンラインゲームなど 	<ul style="list-style-type: none"> ・餅つき ・おにぎり ・抹茶チーズケーキ ・抹茶スムージーなど 	<ul style="list-style-type: none"> ・着付け ・切り絵 ・ちぎり絵 ・カルタ ・書道 ・将棋など 	<ul style="list-style-type: none"> ・けん玉 ・輪投げ ・なわとび ・だるまさんがころんだなど 	<ul style="list-style-type: none"> ・そう乱舞し ・J-popダンスなど

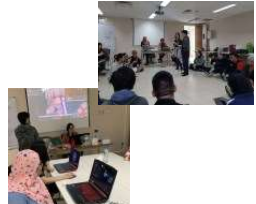


<部員>


- ・約40人
- ・日本語を履修していなくても入部可能。
- ・約半数の部員は日本語を学んでいない。
- ・部員ではなくても飛び入り参加可能。

<活動>

それぞれ興味、関心のある部門に所属
↓
仲間と専門知識を更に探求
↓
他者に知識を伝授、共有



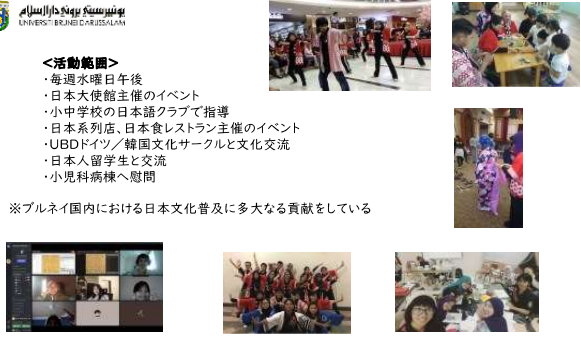
※相互に対等な関係で楽しく学び合うことによって、日本文化への理解が深まる
※教え合いを通して、自己理解を図り日本文化の新たな魅力を発見する




<活動範囲>

- ・毎週水曜日午後
- ・日本大使館主催のイベント
- ・小中学校の日本語クラブで指導
- ・日本系列店、日本食レストラン主催のイベント
- ・UBDドイツ/韓国文化サークルと文化交流
- ・日本人留学生と交流
- ・小児科病棟へ慰問

※ブルネイ国内における日本文化普及に多大なる貢献をしている





課題と今後の展望

<課題>

- ・授業内で文化を扱える時間が短い
- ・日本人教師不足
- ・センシティブなテーマは掘り下げにくい
- ・備品の調達が難しい

<展望>

- ・オンラインライブでの文化体験(茶道や華道など)
- ・オンラインを利用して学生たちがプロの指導を得る機会を作りたい
- ・小中高校生も参加できるジャパンボウル開催

事例発表 Q&A:先生方の回答

[ディルルクシ先生（ケラニヤ大学／スリランカ）]

1. スリランカと日本の「おもてなし」の違いに興味があります。どう違いますか？インバウンド観光の領域ではわりと問題になっていると聞いています。

回答：スリランカと日本の「客」の扱い方の違いがあります。スリランカではビジネス上の「客」と友好関係での「客」をはっきり分けて扱います。友達としての「客」は非常に大切にされる傾向が見られますが、ビジネスの目的で出会う「客」は確かに日本みたいに「神様」として考えない傾向があります。

2. 日本語教師の需要はどのくらいありますか。即戦力が求められますか？

回答：日本語はスリランカの中等教育において（中学校や高校で）受けることができる外国語です。高校の一科目として文科系学習者が受けられます。今までは日本語教師採用はたいてい3年または5年おきに行われます。確かに大学卒業後の直前になることは多いです。採用後に養成講座などは徹底的に行われますが、採用する時点でB.A.学位は日本語であれば採用されます。

[マリカ先生（ウズベキスタン国立世界言語大学）]

1. 調査で韓国語が一番人気のようで、それには特殊な要因があるのでしょうか。

回答：韓国語ができると韓国で仕事ができます。多くのウズベク人が韓国で働いています。

2. ウズベキスタンの方に日本語を教えるに当たって特に気をつけるべきこと、学んで身に付けておいたほうがよいことはありますか？

回答：特に気をつけることはないと思いますが、例えば、アニメなどにキスとか、エロティックなシーンがウズベキスタンの文化にあまり合いません。日本語教師として基本知識があれば十分です。日本人教師が不足しているので、ぜひいらっしゃってください。

3. 日本語教師の需要はどのくらいありますか。即戦力が求められますか？

回答：現地の日本語教師は多いですが、日本人は不足しています。ぜひいらっしゃってください。

[リンダ先生（ピヌス大学／インドネシア）]

1. 調査の中で「会話の能力を伸ばすために、日本文化を」もっと勉強したいか、という質問に、違和感を感じた学生はいなかったのでしょうか。「会話」とは別に「日本文化」を学びたいという意見は無かったのでしょうか。

回答：調査の項目で、「なぜこの質問をされるのか分かりますか。」といった質問をしなかったのも、違和感を抱いた学生がいたかどうかは、定かではありません。しかし、それに追加して私か

ら少しお答えさせていただきます。本学の「日本語会話」の授業は、日本語の発音および語彙を積極的に学習するよう、計画されています。この展開に合わせるように、教員の知識や経験が必要となります。また、発音の違いについても注意を払います。本科目に出席している学生でも、会話自体を嫌う学生もいますが、他の科目でも同じことが言えます。つまり、各科目において、ケーススタディを導入することで教科書以外の、日本語彙、日本文化に触れることができ、集中的にその科目の目的を達成していきながら、文化的要素を加えることで学習者がより日本に対する理解を深めていけるのではないかと考えています。

2. 日本語教師の需要はどのくらいありますか。即戦力が求められますか？

回答：日本語教師に対する需要を、数値的にお答えすることはできません。申し訳ございません。教員能力に対する即戦力ですが、これについても各教育機関によって様々です。本学は大学機関ですので、本学に所属する日本語教師（インドネシア人）は、日本語以外にそれぞれ専門分野を持っております。言語学、日本文化、日本文学、日本歴史など多種多様です。こうした専門性を活かした日本語教育をおこなっております。日本人（ネイティブ）も、もちろん必要となるでしょう。本学には、1名のネイティブが所属しております。ネイティブに求めているのは、インドネシア人日本語教員同様、決して日本語教育だけではありません。このように、ご質問に対して明確ではないかもしれませんが、本学において、教員能力に対する即戦力は欠かせないものだ、感じております。

【秋田先生（ブルネイ・ダルサラーム大学）】

1. ブルネイ国内では、日本語の授業のような教育実践でも、内容を厳しく監視されるのでしょうか。

回答：監視されるということはありませんが、学生達の SNS を通して授業の内容が外へ発信される可能性はあります。どのような言葉や表現で発信されるか分かりませんので、テーマによってはかなり気を付けています。

2. 「日本語教師不足が課題」ということですが、現場レベルでどのようにすれば日本語教師は増加すると思いますか？ IT を活用することで、日本語教師不足を補うことは可能だと思いますか？可能であれば、どのような方法があるのでしょうか？

回答：「日本語教師不足」ではなく「日本人教師不足」が問題となっています。ブルネイ人日本語教師は少しずつ育ってきており、本校の他、生涯教育センターなどでも卒業生が活躍しています。日本人教師雇用は、大学の予算の都合上なかなか実現できないのが現状です。

3. 日本語教師の需要はどのくらいありますか。即戦力が求められますか？

回答：常勤日本人教師の場合、本校以外の需要はありません。修士号以上の学位の他、高等教育機関で2年以上の経験が求められます。

パネルディスカッション

日時：2022年3月5日（金）16：15-16：45

アジアにおける日本語教育—日本文化と日本語教育—

■議題

1. 海外の学生たちは、なぜ日本語を学びたいと思うのか。日本語と日本文化にどのような関心をもっているのか。
2. 海外や日本の大学において、日本文化教育をどのように日本語教育に取り入れているか。
3. 学生の日本語学習と日本文化理解をさらに深めてゆくためには、どのような課題があるか。

■パネリスト

ディルルクシ ラトナーヤカ（ケラニヤ大学 現代言語学科長）

イブラギモヴァ マリカ（ウズベキスタン国立世界言語大学 日本語学科 上級教師）

ロベルト マサミ プラボウォ（ビヌス大学 人文学部 日本語学科）

■モデレーター

長友 文子（和歌山大学 国際連携部門 教授）

■ディスカッション内容

- 1) 海外の学生たちは、なぜ日本語を学びたいと思うのか。日本語と日本文化にどのような関心をもっているのか。

海外の日本語学習者の日本語を学ぶ理由、動機については、事例紹介でリンダ先生からも紹介があったように、国際交流基金の調査でも、「マンガ、アニメ、J-POP などへの興味から」が、66%でトップになっている。実際に、各大学についても、先生方から、アンケート調査やインタビュー調査をされた結果の報告があり、日本語学科を選択したり日本語学習を志望したりする理由の中で、やはり、「日本語と日本文化」、特にドラマやアニメ、漫画への関心が高いということが確認された。

- 2) 海外や日本の大学において、日本文化教育をどのように日本語教育に取り入れているか。

事例発表の中で日本の地理、歴史、文学史、衣食住や挨拶、価値観、社会・文化、非言語コミュニケーションなどを学習する授業や特別プログラムなど、少ない中で工夫されて授業されていることや、さらに学生たちの自主学習についても報告があった。また、日本文化について学ぶ中で、自国の価値観との比較や精神性の向上にも役立ったという紹介もあった。

和歌山大学では、茶道や華道、書道、着物着付けといった伝統文化に関する体験を重視した授業やイベントを地域の方々の協力をいただきながら実施してきた。また、日本語・日本文化研修留学生などのための「日本文化研究」や「日本文化入門」といった授業も開いてきた。コロナ禍で体験学習はできなくなったが、オンラインで「日本文化入門」の授業をどのように実施しているかについて、松下先生から日本の文学や宗教、書道などについて、自分の国と比較して発表し、日本の服装の歴史などについて調べて発表するといった活動をオンラインで行ったという報告があった。

3) 学生の日本語学習と日本文化理解をさらに深めてゆくためには、どのような課題があるか。

私たち日本語を教える者にとって、学生たちが日本語スキルの向上とあわせて日本文化の理解を深めてゆくためにどのような授業をすればよいのだろうか。ブルネイ・ダルサラーム大学・秋田先生の事例発表の中で「授業内で文化を扱える時間が短い」「日本人教師や教材が足りない」といった課題の指摘があったが、そのような課題解決について先生方から様々な指摘があった。「日本にいる外国人や日本人との交流をすることで、日本文化理解を深めてゆきたい（ディルルクシ先生）」「教科書で学ぶ日本語と実際に日本人が使っている日本語は差があるので、例えば、漫画やアニメなどのサイトなどを活用してゆきたい（マリカ先生）」「インターンシップの時に備えて、ハードスキルの勉強だけでなく、ソフトスキルの勉強をしてゆくことが大事だ（ロベルト先生）」

時間的制約があったために、話したいことがたくさん残ったが、日本語教育と日本文化について、事例発表をもとにしたディスカッションで、多くの情報を交換し、相互理解を深めることができた。

(報告者：長友)

イベント実施報告

日時：2022年3月5日（土）13：30～16：50

場所：Zoom ウェビナー

題名：WU International 主催

和歌山大学国際シンポジウム第2回「アジアにおける日本語教育—日本文化と日本語教育—」

担当：長友部門長、藤山副部門長、松下特任助教、長野、ジェイコブソン

参加者：主催者側5名、基調講演者1名、パネリスト5名、視聴者180名（事前登録者228名）

内容：

和歌山大学グローバル化推進機構グローバル化推進部（WU International）が主催し、Wakayama University Symposium Series と題した国際シンポジウムの第2回目を開催した。「アジアにおける日本語教育—日本語教育と日本文化—」をテーマに、国内外から日本語教師がオンラインで集い、基調講演、事例報告、そしてパネルディスカッションを通じて、各国の教育事情、日本文化と日本語教育の関わりについて、課題を共有するとともに、相互理解を深めた。世界16か国から180名の視聴者が参加し、多くの質問が寄せられるなど、大盛況のうちに幕を閉じた。

（報告者：長野 慎一）

写真：

		
本学 伊東学長による開会挨拶	日本大学 野田教授による基調講演	事例報告の様子1
		
事例報告の様子2	事例報告の様子3	パネルディスカッション1
		
パネルディスカッション2	本学 長友部門長による総括	本学足立副学長による閉会挨拶

和歌山大学国際シンポジウム 第2回準備委員会

大会準備委員 長友 文子 (国際連携部門 教授)
藤山 一郎 (国際連携部門 准教授)
松下 恵子 (国際連携部門 特任助教)
長野 慎一 (留学生支援係職員)
ジェイコブソン 久美子 (留学生支援係教育研究支援員)

事務局 国立大学法人 和歌山大学 研究グローバル化推進機構
グローバル化推進部 国際連携部門

ポスター、チラシデザイン: デザイン事務所 BIRDs

編集・校正: 松下 恵子

WU International 主催

Wakayama University Symposium Series vol.2

和歌山大学国際シンポジウム 第2回

「アジアにおける日本語教育—日本文化と日本語教育—」

報告論集

発行日 2022年3月20日

発行者 国立大学法人 和歌山大学 研究グローバル化推進機構
グローバル化推進部 国際連携部門

〒640-8510 和歌山市栄谷 930 番地

Tel :073-457-7524

Mail:kokusai@ml.wakayama-u.ac.jp



国立大学法人

和歌山大学

